

Atlassian製品 Updates

2025年最新情報

2025年08月

INNOOV株式会社



Impossible Alone

チームがチャンスをつかむために
進化し続ける Atlassian

Atlassian Intelligence

新しく加わるバーチャル・チームメイト

Atlassian社の内部モデルとOpenAI社とのコラボレーションによるAIを活用し、Atlassian社のクラウド製品共通のテクノロジー基盤であるAtlassian Platformに組み込まれます。

Atlassian Intelligenceには、ソフトウェア、IT、ビジネスに関わる各チームの作業計画、トラッキング、デリバリー方法に関する 20年超分のデータが反映され、チームワークに関する優れた知識を持っています。

大規模言語モデルを用いて、特定の企業におけるチームがどのように協働するかを推測し、行われている作業の種類と、それらの関係性を表示するカスタムなチームワーク・グラフを構築します。

詳しくはこちら:

[Atlassian Intelligence 新登場！ | Atlassian Japan 公式ブログ | アトラシアン株式会社](#)

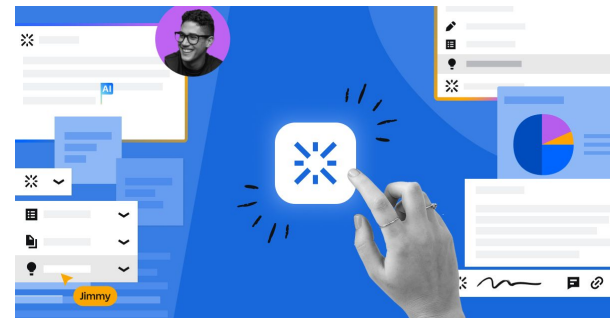
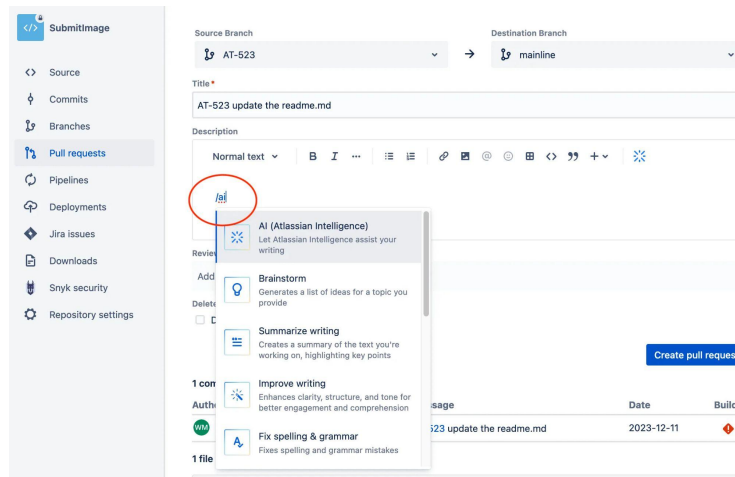


Atlassian Intelligenceの導入効果 – 業務効率と チーム知識の活用が加速

文書作成・検索・問い合わせ対応を AIが支援し、業務時間の短縮とチーム知識の活用が加速します。

- ドキュメント確認時間を最大 70%短縮 (Confluence要約機能)
- タスク登録の手間を大幅軽減 (Jira課題作成補助)
- 文章トーンの自動調整で、やりとりがスムーズに (社内外のチャット対応)
- JSMのAIバーチャルエージェントが 24時間対応を自動化
- 検索にかかる時間を“判断に使う時間”へ転換
- ナレッジの属人化リスクを抑え、共有資産として活用可能に

このように Atlassian Intelligence は、日々の業務負荷を軽減しながら、Confluence や Jira をよりスマートに活用するための、信頼できるAIアシスタントです。



機能活用シーン

Atlassian intelligenceの主な機能①

自然言語を活用したAIアシスト機能

- **テキスト生成・変換・要約** (Jira / Confluence)
 - 例: 会議メモの要点抽出、レビューコメントの言い換え
- **自然言語による検索・問い合わせ**
 - Jira課題の検索やFAQナレッジ検索を自然言語で実行
- **自然言語からの自動化設定**
 - JiraやConfluenceで「自動ルールの作成」が可能(例: ページ更新時に通知)



ナレッジ活用と属人性排除

- **Confluence要約機能**
 - 長文コンテンツの要点を AIが抽出、確認時間を最大 70% 削減
- **ナレッジの再利用支援**
 - 過去ドキュメント・FAQなどからの類似情報提示

● タスク管理の属人性排除と粒度の標準化

プロジェクト初期に複数のメンバーがJira上でタスクを登録する際、記述の粒度や形式にばらつきが生じやすく、レビューや優先順位付けの工数が増える課題があります。Atlassian Intelligenceを活用することで、入力文から適切な粒度でJira課題を生成し、記述の統一を促進できます。

- チームが常に標準化されたタスク粒度で登録でき、レビュー効率が上がる。
- 粗すぎる・細かすぎるタスクをAIがガイドするため、実行精度が向上する。
- PMのレビュー・修正工数を圧縮できる。

● Jira Service ManagementにおけるAIサポート

社内ヘルプデスクでは、ITサポートや経費精算などのリクエストが日常的に届きますが、カテゴリ選択やフォームの入力ミスによる手戻りが頻発します。Atlassian Intelligenceを活用することで、自然言語入力のみでリクエストを完了でき、AIチャットボットによる一次対応も実現可能です。

- ユーザーが自然文で入力するだけで、カテゴリやフォームをAIが自動選択。
- 24時間稼働のAIチャットボットが初期対応し、要約をエージェントに引き継ぐ。
- 問合せ受付が迅速化され、サポート対応の工数が削減される。

◎ Confluenceコンテンツの要約による情報把握の高速化

プロジェクトやチームで共有されるConfluenceページは情報量が多く、重要な内容の把握に時間がかかることが課題です。

Atlassian Intelligenceの要約機能を活用することで、長文コンテンツの要点を自動抽出し、確認時間を大幅に削減できます。

- 会議議事録や技術設計資料などの長文から、重要ポイントのみをAIが要約して表示。
- チームメンバーが全体を読まなくても要点を把握でき、レビューや判断のスピードが向上。
- 多忙な管理職層や承認者の確認負荷を軽減できる。

機能活用シーン

Atlassian intelligenceの主な機能②



高度なデータインテリジェンス

- **自然言語から SQL生成 (Atlassian Analytics)**
 - ノーコードで分析クエリを作成可能
- **プロジェクト状況の要約表示**
 - 定例報告や週報の自動サマリー化 (Confluence + Jira連携)
- **ダッシュボード／チャートの自動生成**
 - 自然文による指示からグラフやチャートを即時作成 (例:「未解決課題の推移をグラフで表示する」)



タスクおよびリクエスト管理の支援

- **Jira課題の自動生成サポート**
 - タスク登録の粒度を標準化。粒度や表現を統一
- **Jira Service Management連携**
 - リクエスト種類の自動提案、24時間チャットボット対応

● プロジェクト状況の分析と報告業務の効率化

プロジェクト状況を分析し、定例報告や週報を作成する際、従来はSQLや手動集計が必要でしたが、Atlassian Intelligenceを活用することで自然言語だけで可視化とサマリー作成が可能になります。

- ユーザーが自然文で「今週遅れている課題は？」と入力するだけで、SQLクエリが自動生成され、グラフなどで結果が表示される。
- 分析の知識がなくても、業務部門のリーダーやマネージャーが自らプロジェクト分析を実施できる。
- Jiraデータに基づき、Confluenceに自動で週報の要約を作成でき、報告業務の時間を大幅に短縮できる。

● タスク登録の標準化と属人性排除

タスクの登録において、表現のばらつきや粒度の違いがプロジェクト管理の障害となることがあります。Atlassian Intelligenceを使えば、記述のガイドやサブタスク化提案により、粒度の統一と精度向上を実現できます。

- チームが常に標準化された粒度でタスクを登録できるため、レビュー効率が向上。
- 適切な粒度・形式へのガイドで、実行精度の高い課題登録が可能になる。
- PMIによる確認や修正の工数を削減できる。

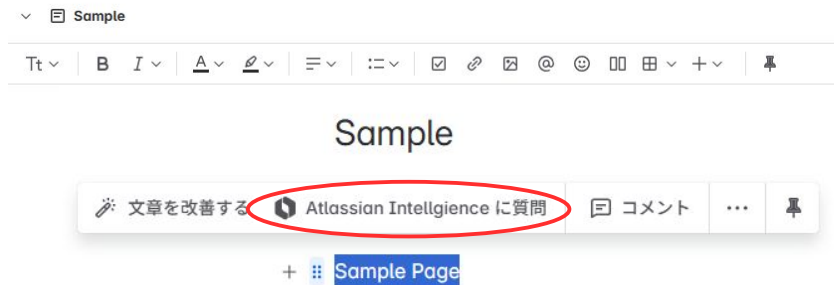
◎ Jira Service ManagementにおけるAIサポート

社内リクエスト対応では、カテゴリ選択ミスや初期対応の負荷が課題です。Atlassian Intelligenceを活用することで、自然言語だけでリクエストを完了させ、AIチャットボットによる自動対応が可能です。

- ユーザーが自然文で入力するだけで、カテゴリやフォームをAIが自動で選定。
- 24時間対応のAIチャットボットが初期対応し、要約された内容をエージェントに引き継ぐ。
- リクエスト受付が迅速化され、エージェントの負担が軽減される。

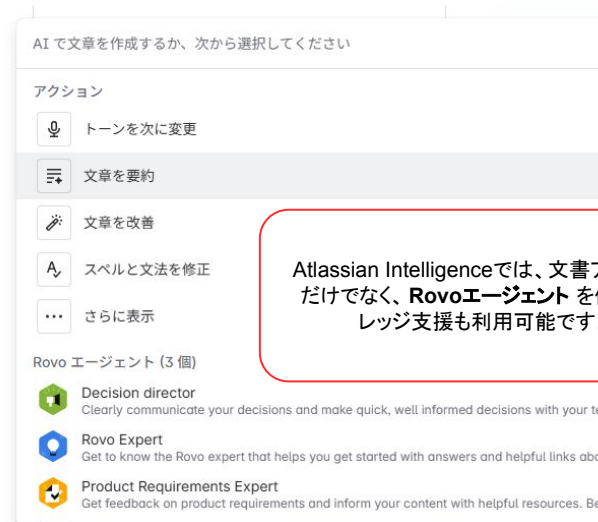
機能: Atlassian intelligenceに質問

Confluenceなどの文書上で生成 AIを活用し、文章の要約・改善・翻訳など様々なアクションを実行できる新機能です。チームのナレッジ共有やコンテンツ作成の効率を飛躍的に高めます。



使い方(起動方法)

1. 編集時のConfluenceページ上で、対象の文章を選択(ドラック)します。
2. 上部に表示される「Atlassian Intelligenceに質問」ボタンをクリックします。
3. 表示されるメニューから、実行したいアクション(例: 要約、翻訳、タイトル提案など)を選択するだけで、AIが即座に処理を実行します。
※使用可能なアクションについては次のスライドを参照ください



Atlassian Intelligenceでは、文書アクションだけでなく、**Rovoエージェント**を使ったナレッジ支援も利用可能です。

Atlassian Intelligenceでは、文書に対して生成 AIを活用した多様なアクションを実行できます。(※文書編集画面にて実行可能
 以下は、AIが対応可能な主なアクションの説明です。



 トーンを次に変更	文章のトーン(丁寧・カジュアルなど)を目的に応じて変換できます。
 文章を要約	長文を簡潔な要点にまとめ、読みやすくします。
 文章を改善	文章の表現や構成を自然で分かりやすく修正します。
 スペルと文法を修正	誤字脱字や文法ミスを自動で検出・修正します。
 短縮	文章の意味を保ちつつ、文字数を短くします。
ベータ版  もっと長くする	文意を補いながら文章をより詳細に展開します。
ベータ版  言い換える	元の意味を保ちつつ、異なる表現に変換します。
ベータ版  箇条書きリストに変換	文章を構造化された箇条書きに変換し、整理します。
ベータ版  表に変換	文章の内容を表形式に変換し、視覚的にわかりやすくします。
 アクションアイテムを探す	文章からToDoや次のアクション項目を自動抽出します。
 タイトルを提案	文章の内容をもとに、適切でわかりやすいタイトルをAIが提案します。
 欠に翻訳	現在の文章を、他言語に翻訳します。

Rovoエージェント

「Atlassian Intelligenceに質問」ボタンを押すと、文書アクションだけでなく、**Rovoエージェント** も利用可能です。
Rovoエージェントは、特定の目的に特化した AIアシスタントで、質問対応、判断支援、ドキュメント作成支援などを行ってくれます。

AI で文章を作成するか、次から選択してください

アクション

表に変換 ベータ版

アクション アイテムを探す

Rovo エージェント (3 個)

-  **Decision director**
Clearly communicate your decisions and make quick,
-  **Rovo Expert**
Get to know the Rovo expert that helps you get started
-  **Product Requirements Expert**
Get feedback on product requirements and inform you
-  エージェントを参照する

利用できるエージェントの例(一部)

- Decision Director: 意思決定サポート
- Rovo Expert: Rovoの使い方ナビゲート
- Product Requirements Expert: 要件レビューサポート など

エージェントを参照

すべて

お気に入り

私のエージェント

+ 作成

Q エージェントを検索

お勧め



Teamwork Trivia Host

作成者:  Atlassian

Host a fun game of trivia to help you get to know your teammates or learn more about a colleague you're about to interact with based on their profile and where they've been...

すべてのエージェント



Basic Coding Agent

作成者:  Atlassian

A general template for creating Coding Agents tailored to your tasks

テンプレート



Brand Voice Crafter

作成者:  Atlassian

Ensure brand consistency with AI-powered assistance. Generate, review, and refine content to match your voice, tone, and guidelines.



Code Accessibility Checker

作成者:  Atlassian

Make accessibility improvements across existing code using this template

テンプレート



Code Observer

作成者:  Atlassian

Generate observability code to improve production monitoring and alerting with this template

テンプレート



Bug Report Assistant

作成者:  Atlassian

Write clear, concise reports with necessary details, to improve triage efficiency



Code Documentation Writer

作成者:  Atlassian

Create or modify documentation files in your codebase to ensure that they are up to date



Code Standardizer

作成者:  Atlassian

Create an agent that helps enforce code standards across repositories using this template

テンプレート

カスタムエージェントの作成も可能！

テンプレートを活用して、**自分専用のエージェントを作成** することもできます。
たとえば「コードレビュー支援用」「ユーザーインタビュー分析用」など、用途に応じた AIアシスタントを自由に定義できます。

Atlassian Teamwork Graph

情報をつなぎ、コラボレーションを支える知識基盤

Teamwork Graph は、Jira や Confluence をはじめとする Atlassian 製品や外部アプリから集約した情報を、文脈に応じて関連付け・構造化し、チーム全体の「知識の地図」を形成する基盤です。

AI検索 (Rovo) や Atlassian Intelligence の裏側で動く中核システムとして、以下をサポートしています：

- チームやプロジェクト、会話、ドキュメントなどの相関関係を自動で整理
- データの一元化による検索性とナレッジ活用の向上
- 「誰が・いつ・なぜ」などの背景コンテキストを理解した結果提示
- アプリ間のスマートリンクやレコメンド機能の精度向上

これにより、必要な情報へすばやくアクセスし、部門を超えた連携を強化できます。

詳しくはこちら：

[Atlassian Teamwork Graph- AI活用と横断検索を支えるナレッジマネジメントの中核基盤](#)



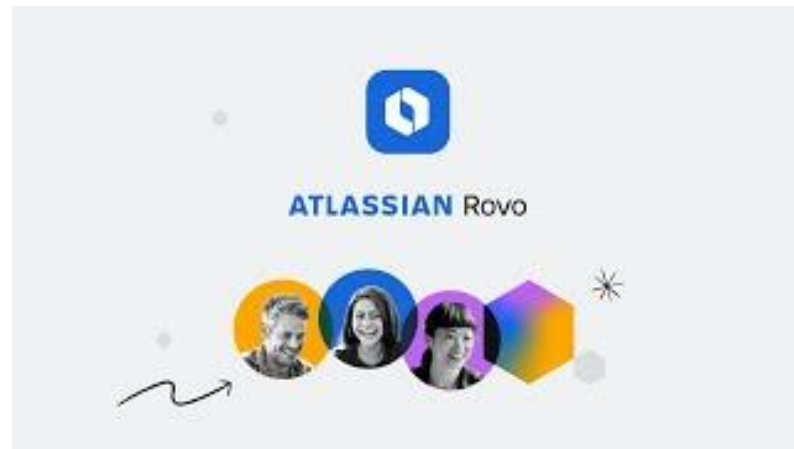
Atlassian Rovo

待ち望んでいたAIのチームメイト

Atlassian Rovoは、Jira・Confluenceをはじめ、Microsoft 365・Notion・Slackなど50以上の外部SaaSと接続可能なAIナレッジ検索基盤です。生成AIにより、社内の情報を横断的に検索・要約し、チームの意思決定と業務遂行を加速します。

- 生成AIが組織全体の情報を横断検索し、意図に沿った情報を即座に抽出
- 文脈理解に基づく関連ドキュメントの提示（ファイル、会話、チケットなど）
- GoogleドライブやSharePointなど外部ツールとの連携にも対応
- インタラクティブチャット形式での質問応答（例：「この仕様は誰が決めた？」「最新PR資料は？」など）
- ナレッジカード機能で、チームの知識を集約・視覚化
- AIエージェントが業務内容に応じた提案やプロジェクト支援を実行

尚、Atlassian Team '25 で発表された通り、**Premiumプラン以上のユーザーにはRovoが無料で提供**されています。



詳しくはこちら: [Atlassian Team 25 発表内容まとめ-rovo全ユーザー提供開始-loom統合-戦略-開発-インフラ強化まで一挙紹介](#)

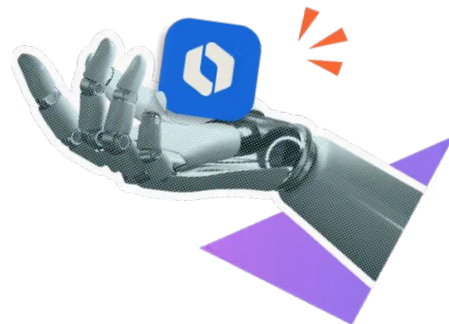
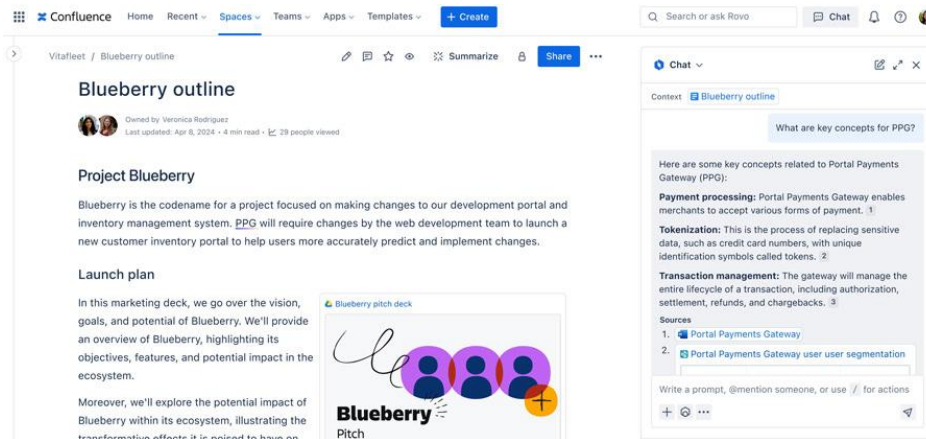
Rovo導入の効果 – 意思決定・業務スピードが劇的に向上

Rovoを導入することで、情報探索と意思決定にかかる時間を大幅に短縮し、チームの生産性・再現性を高めます。

- 検索時間を最大60%以上短縮、作業スピードも向上
- ナレッジの再活用で、二重作業・属人化を回避
- 「後で共有」から「その場で共有」へ進化し、会議の質を改善
- AIエージェントが業務を自動支援し、プロジェクト推進や営業活動を効率化
- ナレッジを一元管理することで、リスク管理や内部統制を強化

このように Rovo は、チーム知識の可視化と再活用を促進し、生成AIを活用した意思決定・業務推進を支える次世代ナレッジ基盤です。

詳しくはこちら: [Rovoのコネクターで社内情報を横断検索-microsoft-365やnotionなど50以上のsaasと連携可能](#)



Impossible Alone

チームがチャンスをつかむために進化し続ける Atlassian



Rovoの主な機能①

社内情報の横断検索

- Jira、Confluence、Microsoft 365、Google Drive、Notion、Slackなど50以上のSaaSと接続可能
- 文脈に沿った自然言語検索が可能で、必要な情報を素早く抽出
- 関連ドキュメントや会話、チケットも含めた検索ができる



AIチャットによるQAとアシスタント機能

- インタラクティブなチャット形式での情報検索・質問応答が可能（例:「この仕様を決めたのは誰？」など）
- 自動要約・提案・タスク化などに対応



ナレッジカード機能

- チーム内の知見をビジュアルに集約・共有
- 関連ドキュメントや会話のリンク付きで、情報の再利用性が高い

機能活用シーン

● 社内ナレッジの横断的活用による情報アクセス最適化

社内のドキュメント、会話、タスクがSaaSツールごとに分断されており、「必要な情報に辿り着けない」ことが多い状況です。Atlassian Intelligenceの横断検索機能を活用することで、あらゆる情報ソースをAIが自動で連携・検索対象に統合し、業務のスピードと精度を高めます。

- 情報の検索時間を大幅に短縮し、作業効率が向上する。
- プロジェクトの背景や意思決定の根拠を簡単に遡れるため、オンボーディングにも有効。
- ツールをまたぐ情報の分断が解消され、ナレッジの再利用性が高まる。

◎ 質問対応・業務ガイドとしての AIチャット活用

ナレッジ検索や社内問い合わせが属人化しやすい中、Atlassian Intelligenceのチャット機能により、自然言語でインタラクティブに質問→回答→アクションが可能になります。

- 「この仕様を決めたのは誰？」など、背景情報を迅速に特定できる。
- コードレビューやPRD確認の前に、AIから要点や関連ドキュメントを取得し、効率的に準備できる。
- チームメンバーが不在でも、AIが一次対応することでタイムロスが減少する。

● 知識の見える化と再利用性向上によるチーム力強化

属人化していた仕様や業務知識を、再利用可能な「カード」形式で整理・視覚化することで、チーム全体の知識の透明性と継続性が高まります。

- リリース仕様・運用ルール・手順書などを簡潔に整理し、誰でも理解・活用できる状態に。
- 複数のドキュメントをまたぐ情報を1つのカードに集約することで、検索性と参照性が向上。
- 新メンバーへの情報引き継ぎがスムーズに行えるようになり、立ち上がりが早くなる。

機能活用シーン

Rovoの主な機能②



プロジェクトサポートエージェント

- Rovoエージェントがプロジェクト推進、営業活動、製品仕様作成などの実務をサポート
- 会話・文書・タスクの文脈を理解し、フェーズごとの業務を自動的にガイド
- マーケティング、PR、コンテンツレビューなど企画・クリエイティブ領域にも応用可能



生成AIによる文書生成・要約・翻訳

- Confluenceページやドキュメントの初稿作成・要点抽出・多言語翻訳・表現の言い換えをサポート
- 煩雑になりがちなチーム間の情報共有を、誰でも理解しやすい形に



会議録や音声データの自動処理

- Loomとの連携で、録音音声からの文字起こし・要約・議事録作成が可能
- Zoom / Microsoft Teamsとの統合により、話者ごとの発言区別やリアルタイム翻訳にも対応
- 会議終了直後にサマリーやアクションアイテムが自動生成され、即共有が可能

● 業務推進を支えるAIパートナーとしての活用

複雑なプロジェクトでは、ドキュメント整理や進捗管理、関係者間の情報共有に時間がかかり、作業遅延や品質ブレが起きがちです。RovoのAIエージェントを活用することで、各フェーズに応じた自動サポートや情報要約、文書提案を実行し、プロジェクト推進を強力に後押しします。

- 仕様の整理やPRDの初期ドラフトを自動生成でき、手戻りを防げる。
- 会話やチャットの内容からタスク候補を抽出し、抜け漏れを防止。
- 営業資料や提案書のレビュー・提案文もアシストでき、営業活動のスピードが上がる。

◎ドキュメント作成・共有の効率化と多言語対応

チーム間の情報共有では、「長文で読まれない」「英語が苦手な理解に時間がかかる」などの課題が発生します。Confluenceと連携する生成AI機能により、ページ作成・要約・翻訳・表現調整まで自動化され、情報理解のバリアを取り除きます。

- 会議メモや議事録を自動要約・翻訳し、チーム全体に即時展開できる。
- 文章表現を簡潔に整え、レビューにかかる工数を削減。
- 翻訳コスト・対応遅延を抑え、多言語チームでの円滑な情報共有が可能に。

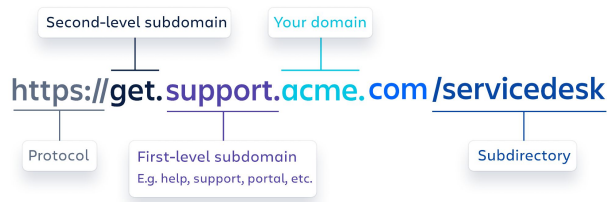
● 会議情報の整理と共有の自動化による生産性向上

リモート会議の増加により、議事録作成・議論要点の共有に時間がかかるという課題が拡大しています。RovoはLoom、Zoom、Teamsとの連携により、音声の文字起こし・要約・翻訳・話者分離を自動で実行し、情報整理と共有を圧倒的に効率化します。

- 会議の録音から自動的にアクションアイテムを抽出。
- 要点を整理したサマリーをConfluenceに自動生成。
- 話者別の要約により、誰が何を言ったかを即把握可能。

Impossible Alone

チームがチャンスをつかむために進化し続ける Atlassian



Priorities						
The table below shows the priorities used in this version of Jira, in order from highest to lowest.						
Icon and name	Description	Color	Order	Used by	Actions	
Highest	This problem will block progress.		↓	1 scheme	Edit	Delete
High	Serious problem that could block progress.		↑ ↓	1 scheme	Edit	Delete
Medium	Has the potential to affect progress.		↑ ↓	1 scheme	Edit	Delete
Low	Minor problem or easily worked around.		↑ ↓	1 scheme	Edit	Delete
Lowest	Trivial problem with little or no impact on progress.		↑	1 scheme	Edit	Delete

カスタムドメイン (Jira・Confluence・JSM対応)

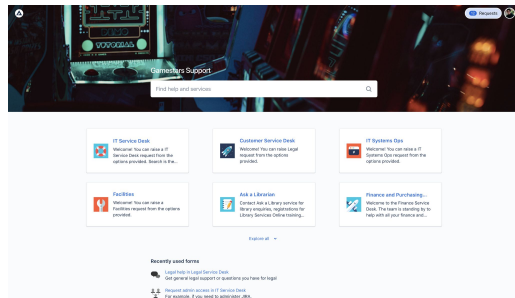
- **自社ドメインで Jira/Confluence を運用可能に**
これまで [atlassian.net](#) ドメインで提供されていた SaaS 製品に対し、企業独自のドメインを割り当てることができるようになりました。たとえば [support.acme.com](#) や [docs.example.com](#) のように、エンドユーザーにとっても信頼感のあるドメインを利用可能です。
- **ブランド戦略とユーザー体験の一貫性を実現**
カスタムドメインにより、Web サイト・ナレッジベース・サポート窓口などすべての顧客接点が統一され、ブランド認知の強化や信頼性の向上に貢献します。また URL に含まれるサブディレクトリやサブドメインも柔軟に設計できるため、マーケティングやセキュリティ面でも効果を発揮します。

プロジェクトごとの優先度設定

- **プロジェクト単位で独自の優先度を定義可能**
Jira Cloudにおいて、従来は全サイト共通であった課題の「優先度 (Priority)」設定が、プロジェクトごとに個別定義できるようになりました。プロジェクトの目的や業務特性に応じた柔軟な運用が可能となり、実際の優先順位に即した課題管理が実現します。
- **チームや業種ごとに最適な運用スタイルを設計**
たとえば、開発チームは「Blocker / Critical / Major」などの構成、バックオフィスチームは「緊急 / 通常 / 保留」など、各チーム独自の優先度ラベルを定義できます。視覚的な管理もしやすく、作業の抜け漏れや認識のズレを防ぎます。

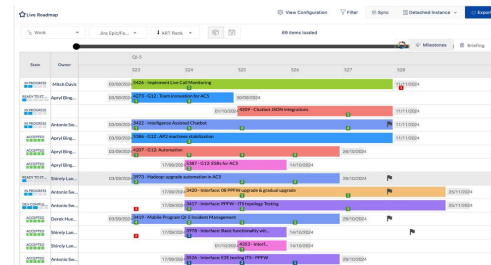
Impossible Alone

チームがチャンスをつかむために進化し続ける Atlassian



JSMヘルプセンターのフルカスタマイズ

- **ブランドイメージに沿った顧客ポータルをノーコードで自由に構築**
Jira Service Management(JSM)のヘルプセンターでは、背景画像、ロゴ、配色、レイアウトなどを自在に調整でき、企業ごとのブランドガイドラインに完全準拠したデザインが可能です。
- **UI/UX最適化による問い合わせ数の最適化と自己解決率の向上**
FAQリンクやカテゴリ設計を直感的に整備することで、エンドユーザーが自己解決にたどりつきやすい構造を構築。サポート負荷の軽減と顧客満足度の向上を両立できます。

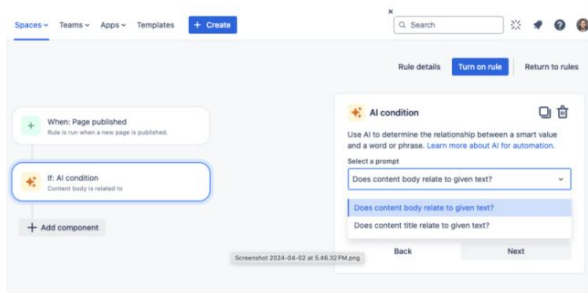


Jira Plans: 四半期のカスタマイズ

- **「四半期」の定義を柔軟に設定可能**
Jira Plansでは、1年を「Q1～Q4」に限らず、企業やプロジェクトに合わせた独自の四半期定義(例: 学期、会計期、開発スプリント単位など)を設定できます。これにより、従来のカレンダーベースの制約を超えた柔軟なプランニングが実現します。
- **グローバルチームに対応する期間調整の自由度**
チームが複数のタイムゾーンや国を跨って活動している場合でも、各地域の年度区分や商習慣に応じてスケジュール設定が可能です。結果として、より実践的かつ文化にフィットしたロードマップ作成が可能となります。

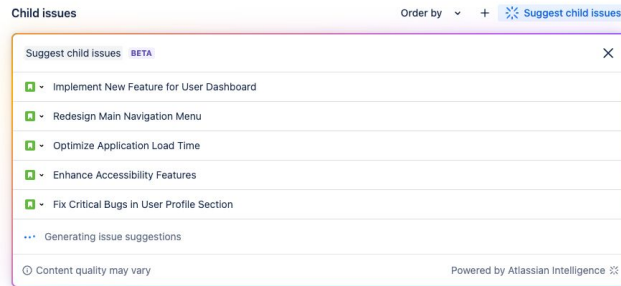
Impossible Alone

チームがチャンスをつかむために進化し続ける Atlassian



Confluence AI:オートメーションルールビルダー (EAP)

- **AIがルール作成をアシストし、日常業務の効率化を推進**
Confluenceに新たに搭載された AIによって、ページの公開タイミングやタイトル・本文の内容を自動で解析し、適切な条件・アクションを提案します。従来は手動で設定していた自動化ルールが、AIによってスムーズに構築可能となり、運用負担を大幅に軽減します。
- **ドキュメントの更新通知やタスクトリガーを自動化**
「ページ公開時に通知を送る」「特定キーワードを含む場合に作業依頼を生成する」などのルールが AIによって直感的に設定可能です。これにより、チームの情報共有やアクションの実行スピードが向上します。

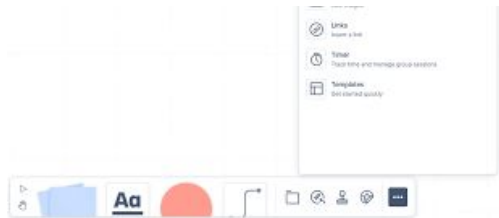


AI Work Breakdown (Jira統合)

- **プロジェクトの概要から AIが自動でタスク分解を提案**
Jiraに入力されたプロジェクトの目標や概要をもとに、AIが適切な子課題(チケット)を自動生成します。構成案には UI改善、アクセシビリティ対応、新機能開発など、実際のニーズに即した項目が含まれ、計画初期段階の検討を強力にサポートします。
- **タスクの抜け漏れ防止と計画精度の向上**
人的ミスによる作業漏れを未然に防ぎ、チーム全体で共通認識をもったうえで作業を開始できます。また、AIが提案する粒度の整った子課題により、見積もり精度やロードマップ策定の信頼性が高まります。

Impossible Alone

チームがチャンスをつかむために進化し続ける Atlassian



Miro Importer for Confluence

- **MiroボードをConfluenceページにワンクリックで埋め込み可能**
外部のMiroで作成したホワイトボードをConfluenceページ内に直接取り込み、閲覧・共有・文脈化が可能になります。作業の流れやディスカッションの可視化を、文書と一体化して一元管理できます。
- **ビジュアルなアイデアをナレッジ資産として蓄積**
チームのブレインストーミング、ワークショップ、UXマッピングなどで生まれたMiro上のアイデアを、埋もれさせずにConfluence上のドキュメント資産として管理できます。これにより、議論が成果物へと変換されやすくなります。

Table Structure

Created by Michael, last modified just a moment ago

Year	Cost	Notes						
2015	\$20	<table><tr><td>Pricing</td><td>Price went up from last year</td></tr><tr><td>Delivery</td><td>ON TIME</td></tr><tr><td>Feedback</td><td>😊</td></tr></table>	Pricing	Price went up from last year	Delivery	ON TIME	Feedback	😊
Pricing	Price went up from last year							
Delivery	ON TIME							
Feedback	😊							
2016	\$25	<table><tr><td>Pricing</td><td>Prices rose</td></tr><tr><td>Delivery</td><td>DELAYED</td></tr><tr><td>Feedback</td><td>😞</td></tr></table>	Pricing	Prices rose	Delivery	DELAYED	Feedback	😞
Pricing	Prices rose							
Delivery	DELAYED							
Feedback	😞							

ネストテーブル(Nested Tables)対応

- **テーブル内にテーブルを入れ子で作成可能に**
Confluence Cloudでは、表の中にさらに表を挿入できる「ネストテーブル」が正式サポートされ、複雑な情報構造の可視化がより柔軟に行えるようになりました。設計書、仕様書、比較表などの構造化ドキュメントに最適です。
- **情報の階層化により、可読性と操作性を大幅に向上**
データやメモを「グループ → セクション → 要素」など階層的に整理可能になり、チームでのレビューや検索がしやすくなります。とくにエンジニアリングチームやプロダクトチームでの活用が進んでいます。

ホワイトボードの機能アップデート

🔗 Jira連携でタスク管理がスムーズに

Jiraチケットをボードにドラッグ&ドロップするだけで、リンク付きカードとして配置可能。
ホワイトボード上でタスクを「見える化」&即アクション。

★ 豊富なテンプレートで即スタート

「アイデア出し」「会議」「レトロスペクティブ」など、シーンに合わせたテンプレートがあらかじめ用意されています。

🗒 スタンプと手書きでアイデアを可視化

フィードバック用スタンプの種類が増え、投票やリアクションが楽しく・直感的に。
さらに、マウスやタッチペンで手書きの図解やコメントも可能 です。

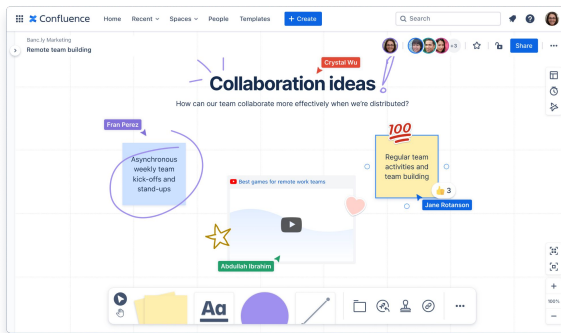
👥 リアルタイムコラボレーション

複数人で同時編集・コメント・スタンプ操作ができ、まるで1つのボードを囲んでいるようなライブ感。

📄 「/」コマンドで操作もスピーディ

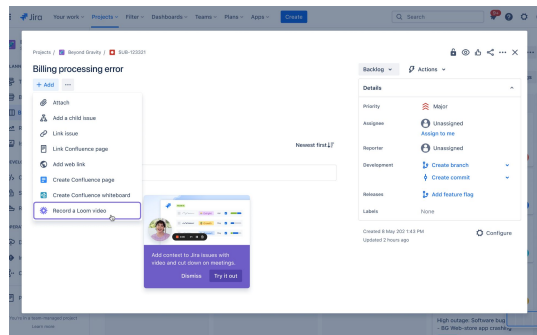
以下のショートコマンドで、必要な操作を即実行：

- `/sticky`: 付箋作成
- `/vote`: 投票開始
- `/comment`: コメント追加 など



Loom 日本語対応 – 動画コミュニケーションがさらに身近に

Atlassian製品と連携して利用できる Loomが、自動字幕機能で日本語に対応しました。これにより、動画での情報共有や学習が日本語環境でもスムーズに行え、チーム内外のコミュニケーションを一層効率化できます。



- **グローバル対応**

字幕の言語切替が可能で、日本語と英語双方のユーザーが同じ動画を快適に利用可能。

👉 国際チーム間での情報共有における認識齟齬を低減します。

- **日本語字幕に対応**

録画した動画に自動で日本語字幕を付与可能。
会議の内容や説明を文字で確認でき、聞き逃しを防止。

👉 聞き返しや二度目の確認が不要になり、作業効率が向上します。

- **検索機能で効率化**

動画内の発言を日本語テキストで検索でき、
必要なシーンへすぐにアクセス可能。

👉 長時間の動画から目的の情報を瞬時に見つけることが可能になります。

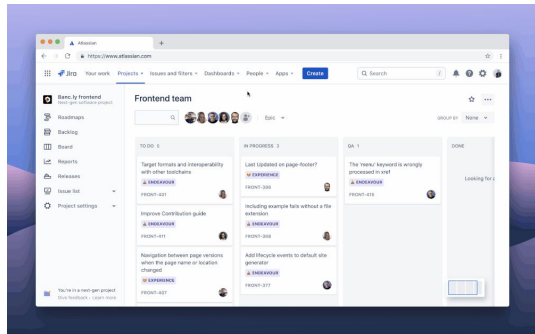
- **理解度の向上**

日本語ユーザーが母国語で内容を把握できるため、
教育・ナレッジ共有の効率が大幅に向上。

👉 英語や日本語以外の言語に不慣れなメンバーも安心して利用することができます。

Jira新UI(New Look and Feel – EAP)

AtlassianはJira Cloudの操作体験を刷新し、より直感的でモダンな UIへの移行を進めています。チームの生産性を高める新しいインターフェースが順次展開されています。



- ワークスペースを横断したナビゲーション統合

プロジェクト間・課題間の移動がスムーズに。グローバルナビゲーションとコンテキストメニューの最適化により、迷わない設計へ。

👉 利用頻度の高い操作に素早くアクセスでき、Jira初心者でも迷いづらいUXが実現されています。

- 情報設計の見直しによる視認性向上

課題ビュー、ボード、フィルター画面など、主要 UIコンポーネントが再構築。余白や階層構造の見直しで、情報の把握がしやすく。

👉 細かな情報も見落としにくくなり、確認作業やレビューがよりスムーズに行えます。

- アクセシビリティと統一感の強化

Atlassian Cloud全体での一貫したビジュアルスタイルを導入。ConfluenceやAtlasとの横断利用時も違和感のない UIに。

👉 製品間の一貫性が増し、複数ツールを併用するユーザーのストレスが軽減されます。

- 現在は EAP(Early Access Program)として先行提供中

フィードバックをもとに最終調整が進行中。今後、一般リリース予定。

👉 EAPユーザーからの評価を踏まえて細部を改良中で、安定性と実用性の両立を目指しています。

「Issue」から「Work item」へ — 用語のモダナイズ 2025年10月に変更予定

Atlassianは「Issue」という従来の用語から「Work item（作業項目）」への移行を進めており、Jira全体の表現がより包括的で理解しやすくなります。この変更により、Jiraが開発チームだけでなく、ビジネス部門やサポートチームなど多様な職種でも使いやすいツールへと進化します。

- 「Issue」はもはや「問題」だけではない

タスク、ストーリー、バグ、エピックなど、実際の運用では多様な意味を持っていた「Issue」。その実態に合わせて名称を見直し。

👉 これにより、誤解を招きやすかった「Issue＝問題」という印象が払拭され、業務全体の文脈に即した理解が促進されます。

- Work itemは「実行すべき単位」全般を包括

すべての作業単位を包括する表現として「Work item」を導入。ビジネスサイドや非開発者にとっても直感的な用語に。

👉 開発タスクに限らず、マーケティング施策や法務確認などの業務項目も同じフレームで管理しやすくなります。

- UI・ドキュメント・APIでも順次変更へ

Jiraの画面表示、ヘルプドキュメント、REST APIなどでも「Work item」表記が反映されていく予定。

👉 移行は段階的に進行するため、旧来の「Issue」表記と混在する期間もありますが、互換性は維持されます。

- 他製品との整合性を意識

Jira Align、Atlasなど他のAtlassian製品と用語を統一することで、横断的なコラボレーションの障壁を削減。

👉 製品間で用語のずれによる混乱を防ぎ、組織全体でのナレッジ共有やプロジェクト管理の効率化につながります。

2024年までのアップデート

Confluence Whiteboards

コラボレーションを再創造する

新しくConfluenceに、ホワイトボード機能を搭載します。
アトラシアンプラットフォーム上に構築され、アトラシアン製品と深く統合されたこの機能によって、同じツールから即座にアイデアを実行に移すことができます。

- **自由にブレインストーミング** : 付箋、図形、スタンプ、シール、タイマー、ペンなどを使って、チームで新しいアイデアを生み出すことができます。
- **アイデアを成果物へ変換** : ワンクリックで、付箋を Jira の課題や Confluence ページに変換します。
- **業務を可視化** : 例えば、すべての Jira の課題を単一のビューに統合し、それぞれの依存関係を追加。Smartlink を使って Figma や Loom などの外部コンテンツを組み込む。すべての Jira の課題を一人のエンジニアにまとめてアサインするなど、一括した操作を迅速に行うことができます。



参考: [コラボレーションを再創造する Confluence 最新機能 | Atlassian Japan 公式ブログ | アトラシアン株式会社](#)

Impossible Alone

チームがチャンスをつかむために進化し続ける Atlassian



Confluence Whiteboards



Impossible Alone

チームがチャンスをつかむために進化し続ける Atlassian

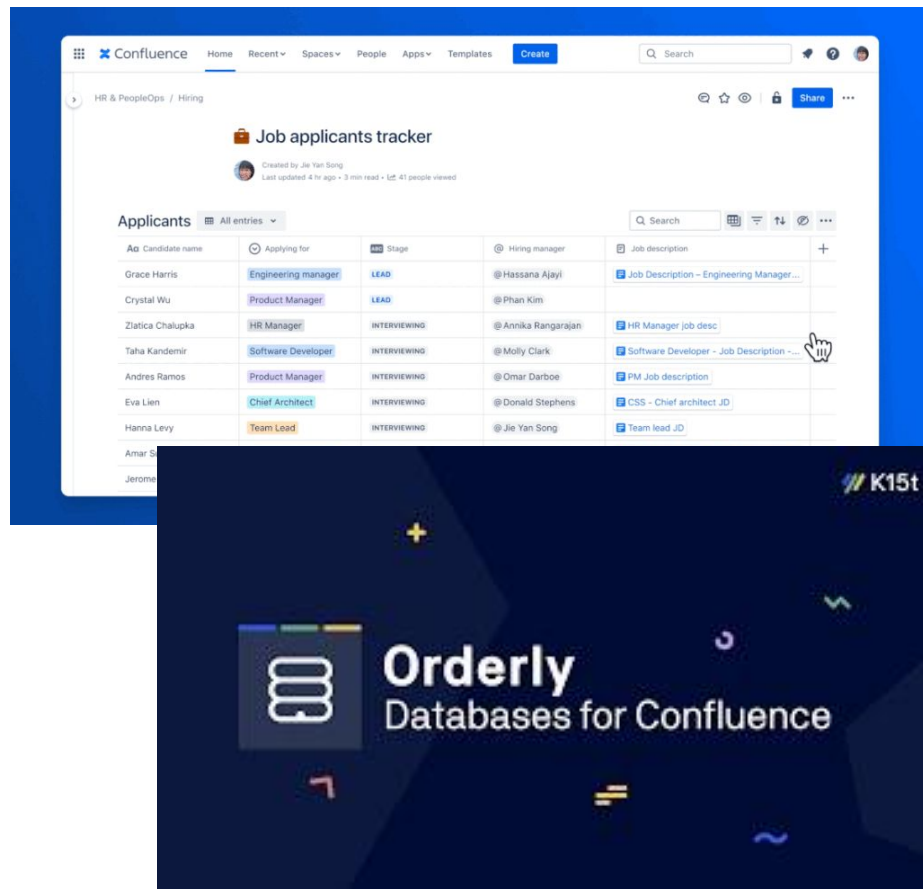
Confluence database

Confluenceデータベースで 業務の関連付けとトラッキングを強化

- データベースは、構造化された動的なテーブル
⇒ JiraのタスクやConfluenceのページ、オーナー、期日、ステータスなどの情報を関連付けて単一のデータベーステーブルに整理して格納することができます。
- ユーザーは、個別のセルや行、テーブル全体を、Confluence上の他のページから、リアルタイムに同期して参照することができます。Confluenceデータベースによって、各チームは常に最新の情報を自動的に入手することが可能です。

* まもなくベータプログラムが始まります。

[Databases are coming soon to Confluence! - Atlassian Community](#)



買収されたアドオンの製品紹介動画

Impossible Alone

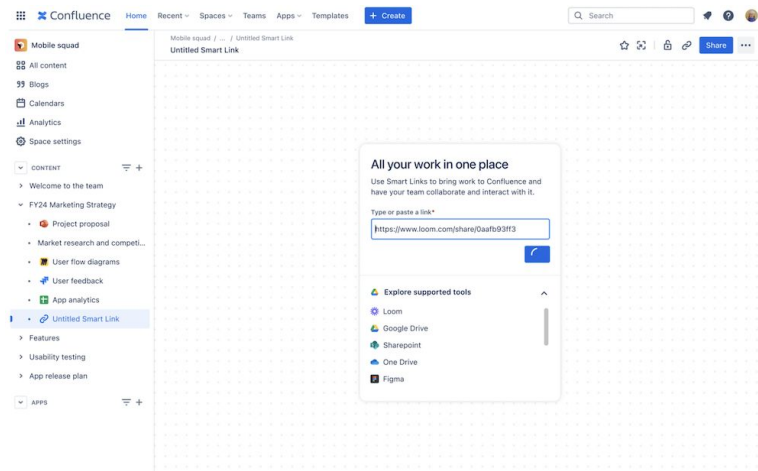
チームがチャンスをつかむために進化し続ける Atlassian

Confluence smartlink

Confluence smartlinkで他のアプリケーションをリンクしそのまま表示

概要

1. **コンテンツの簡単なリンク作成** :
 - Smart Linksを使用すると、URLを貼り付けるだけでリンクを作成できます。リンクは自動的にインテリジェントなプレビューを提供します。
2. **豊富なプレビュー機能** :
 - リンク先のコンテンツ(ウェブページ、ドキュメント、動画など)のプレビューを表示し、ユーザーがリンクをクリックしなくても内容の一部を確認できるようにします。
3. **多様なコンテンツタイプ対応** :
 - Smart Linksは、Atlassian製品(Jira、Trelloなど)だけでなく、Google Drive、Dropbox、YouTube、その他多数の外部サービスとも連携できます。
4. **インライン表示** :
 - Confluenceページ内でリンクされたコンテンツをインラインで表示することができます。これにより、ユーザーはページを離れずに必要な情報にアクセスできます。
5. **動的更新** :
 - リンク先のコンテンツが更新された場合でも、Smart Linksはその変更を自動的に反映し、常に最新の情報を提供します。
6. **インタラクティブ機能** :
 - プレビューウィンドウ内で直接操作が可能な場合があります。例えば、Jiraのチケットリンクの場合、チケットのステータスや詳細情報を表示し、編集することも可能です。



Impossible Alone

チームがチャンスをつかむために進化し続ける Atlassian

Confluence ゲスト機能

契約ユーザー1に対し5ゲスト無料で招待可能！

メールやファイル作業が削減され 顧客や関係者との情報共有が容易に行える

すべてのプロジェクトが 1 つの組織内で完結するとは限りません。他社と提携して統合環境を構築したり、代理店と協力してキャンペーンを実現したり、請負業者やコンサルタントを参加させて大きなプロジェクトの進行をしたりする場合があります。

Confluenceのゲスト機能を使えば顧客や関係者との連絡でメールやファイルを使う必要がなくなります。

特定の1つのスペースに対して契約したライセンス数の 5倍までゲストとして招待できます。

Confluence Cloudなら100ユーザを契約している場合、500ユーザまでゲストユーザを招待可能です。

ゲスト機能の活用シーン

システム構築

ミーティングで得た顧客の要望をConfluence上に表示し、メモ内容を常に見える化

顧客をゲストユーザーとして招待し、商談で得た顧客の要望を常に見える化します。貴社が認識している顧客の要望を顧客は常に関連できるため、疑問の解消・誤認識を指摘ができます。

- ・クライアントが常にプロジェクトの最新情報にアクセスできる。
- ・常に情報共有が行われたため、情報の更新が常に行われプロジェクトの進捗が速くなる。
- ・ゲストは誤認識が容易に指摘できるため、提案書の廃案がなくなる。

コンサルティング会社

クライアントをConfluenceのゲスト機能で招待し、共通認識・プロジェクトを常に見える化

ミーティングで得た情報・メモをConfluence上に表示することでクライアントが常にプロジェクトに関する疑問の解消・誤認識を指摘ができます。

- ・クライアントが常にプロジェクトの最新情報にアクセスできる。
- ・常に情報共有が行われたため、情報の更新が常に行われプロジェクトの進捗が速くなる。
- ・ゲストは誤認識が容易に指摘できるため、提案書・設計書の廃案がなくなる。

建築に関する商談内容をConfluenceで表示

ミーティングで得た顧客の要望した仕様をConfluence上に表示し、メモ内容を常に見える化

顧客をゲストユーザーとして招待し、商談で得た顧客の要望を常に見える化します。貴社が認識している顧客の要望を顧客は常に関連できるため、疑問の解消・誤認識を指摘ができます。

- ・クライアントが常にプロジェクトの最新情報にアクセスできる。
- ・常に情報共有が行われたため、情報の更新が常に行われプロジェクトの進捗が速くなる。
- ・ゲストは誤認識が容易に指摘できるため、提案書の廃案がなくなる。

Impossible Alone

チームがチャンスをつかむために進化し続ける Atlassian

Atlassian Guard (旧Access+Beacon)



Atlassian Guardは、Atlassianが提供するセキュリティおよびコンプライアンス管理ツールです。

1. **セキュリティポリシー管理**: Atlassian Guardは、企業のセキュリティポリシーを一元管理し、適用するためのツールです。これにより、セキュリティポリシーの遵守を確保しやすくなります。
2. **リアルタイム監視とアラート**: システムの監視をリアルタイムで行い、不審な活動やポリシー違反が発生した際に即座にアラートを発する機能があります。
3. **コンプライアンス管理**: 各種規制（例:GDPR、HIPAAなど）への準拠を支援する機能を備えています。監査ログやコンプライアンスレポートの生成が可能です。
4. **インテグレーション**: JiraやConfluenceなどのAtlassian製品とシームレスに統合でき、セキュリティインシデントの管理や追跡を効率化します。
5. **リスク評価と管理**: システムやプロジェクトに対するリスク評価を行い、リスク軽減策を提案します。これにより、潜在的な脅威に対する対策を講じやすくなります。
6. **アクセス管理**: ユーザーアクセスを厳密に管理し、必要な権限だけを付与することで、内部からのセキュリティリスクを低減します。
7. **カスタマイズ可能なポリシー**: 各組織のニーズに合わせて、セキュリティポリシーをカスタマイズすることができます。

Atlassian Guardは、組織のセキュリティ態勢を強化し、規制遵守を確実にするための包括的なソリューションです。特に大規模なIT環境や複雑なプロジェクト管理を行う企業にとって、有用なツールとなります。

Impossible Alone

チームがチャンスをつかむために進化し続ける Atlassian



So much more than a screen
recorder



Record once, edit effortlessly

Outsmart the undo button. Instead of restarting, rewinding while you're still recording to get the perfect take. After recording, dial in your video by trimming words from its transcript. With Loom, editing video is as easy as editing a text.

Record now →



Loomは、ビデオメッセージを作成して共有できるオンラインプラットフォームです。
主に以下の特徴と機能があります：

1. **ビデオメッセージ作成**：Loomを使うと、画面の録画やウェブカメラを使用して簡単にビデオメッセージを作成できます。画面とカメラを同時に録画することも可能です。
2. **コラボレーション**：ビデオメッセージを共有することで、チームメンバーやクライアントと効率的にコミュニケーションを図ることができます。フィードバックをビデオ上に直接書き込むこともできます。
3. **リンク共有**：録画したビデオはリンクで簡単に共有できます。相手はリンクをクリックするだけでビデオを見ることができます。
4. **編集機能**：作成したビデオに対して、トリミングや注釈の追加などの簡単な編集を行うことができます。
5. **分析**：ビデオの視聴回数や視聴者の行動を追跡するための分析ツールが提供されています。
6. **プラットフォーム対応**：LoomはWebアプリ、デスクトップアプリ、モバイルアプリとして提供されており、どこからでもアクセスできます。
7. **セキュリティとプライバシー**：ビデオのアクセス権限を設定することができ、特定の人だけが視聴できるようにすることが可能です。

Loomは、リモートワークや分散チームのコミュニケーションを改善するための強力なツールとして、特にITコンサルタントやクリエイティブプロフェッショナルにとって役立ちます。

<https://www.loom.com/>

Impossible Alone

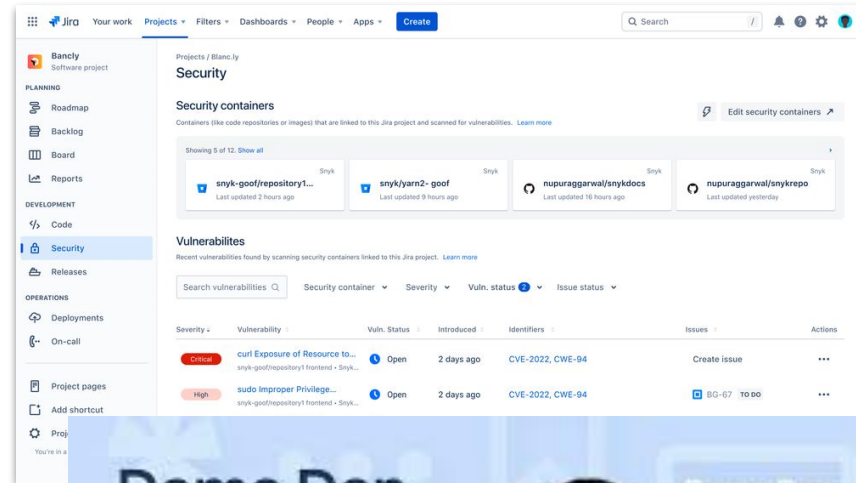
チームがチャンスをつかむために進化し続ける Atlassian

Security in Jira

最新のDevSecOps機能: 開発からリリースまで、コードの安全性を確保

セキュリティテストをシフトLEFTし、本番に突入する前に脆弱性をキャッチしましょう。

セキュリティテストの専門家との提携により、Jira Software Cloud は、脆弱性を開発者のスプリントのコンテキストに取り込むことで、セキュリティチームと開発チームが単一の統一ペインでコラボレーションすることを可能にします。



The screenshot displays the Jira Security interface for a project named 'Bancify'. The left sidebar shows navigation options: PLANNING (Roadmap, Backlog, Board, Reports), DEVELOPMENT (Code), and OPERATIONS (Releases, Deployments, On-call). The main content area is titled 'Security' and includes a 'Security containers' section with a list of containers like 'snyk-goof/repository1...' and 'snyk/jam2- goof'. Below this is a 'Vulnerabilities' section with a search bar and filters for Severity, Vuln. status, and Issue status. A table lists vulnerabilities, including 'curl Exposure of Resource to...' and 'sudo Improper Privilege...', with details on their severity, status, and identifiers.



参考:[Security in Jira \(DevSecOps capabilities in Jira Software\)](#)

Impossible Alone

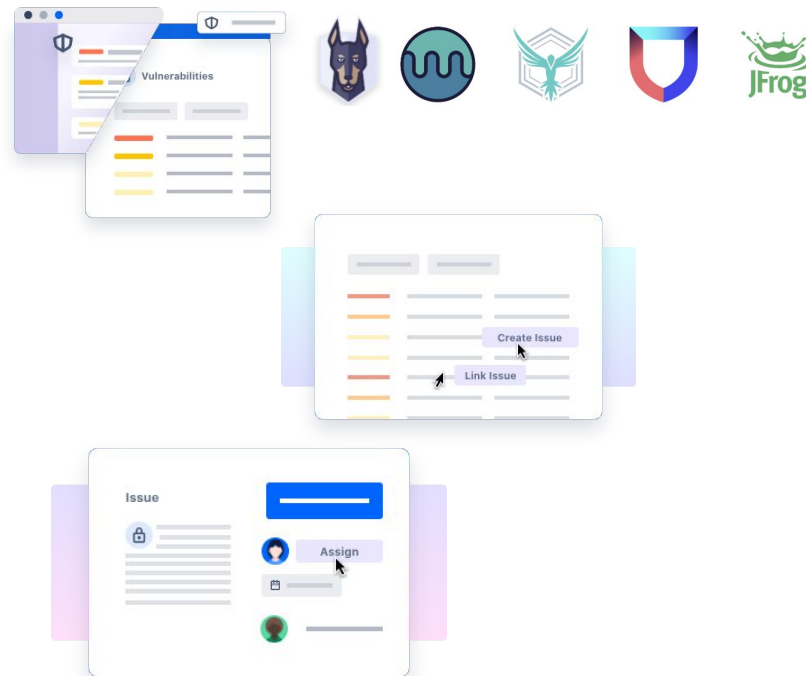
チームがチャンスをつかむために進化し続ける Atlassian

Security in Jira

最新のDevSecOps機能: 開発からリリースまで、コードの安全性を確保

- **セキュリティの脆弱性を Jira で把握して、より迅速に修正する**
セキュリティ ツールを Jira と組み合わせると重要な脆弱性を把握しやすくなるため、チーム全体で脆弱性の解決に集中できます。
- **予定外の脆弱性を管理可能な作業に変換**
脆弱性の課題を作成してチームとして優先順位を付け、今後予定されているスプリントでの作業を計画します。
- **セキュリティに関する修正をすべて 1 か所ですぐに把握する**
脆弱性が Jira の課題にリンクされている場合は、優先度、対応しているユーザー、あとどれぐらいで解決できるかを一目で確認できます。

参考: [Security in Jira \(DevSecOps capabilities in Jira Software\)](#)



Impossible Alone

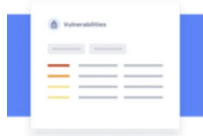
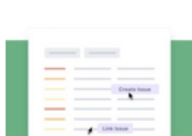
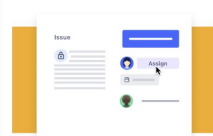
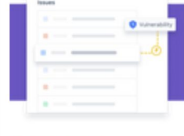
チームがチャンスをつかむために進化し続ける Atlassian

Security in Jira

最新のDevSecOps機能: 開発からリリースまで、コードの安全性を確保

- **監査**
プロジェクトに影響を与えるすべての脆弱性を包括的に把握することができます。
- **評価**
コードコンポーネントとベースへの影響に基づき、共同で脆弱性のトリアージを行います。
- **割り当て**
あらかじめ入力されたフィールドを使用してチケットを素早くファイリングし、コード作成者にチケットを割り当てます。
- **自動化**
Jiraは、脆弱性を課題に自動的にリンクし、迅速な修正に必要なコンテキストを提供します。

参考: [Security in Jira \(DevSecOps capabilities in Jira Software\)](#)

			
Audit Get a comprehensive view of all vulnerabilities impacting your project.	Assess Collaboratively triage vulnerabilities based on impact to code component and base.	Assign Quickly file tickets with pre-populated fields and assign tickets to code authors.	Automate Jira automatically links vulnerabilities to issues, providing the context needed for quick fixes.

Find your ultimate DevSecOps workflow

Test-in-depth security in crucial for any product security program. Open DevOps' aspires to support your ultimate DevSecOps workflow, no matter the tools you use. Explore the integrations Security in Jira supports today.

 Snyk Try for free	 Mend (formerly WhiteSource) Try for free
 Stackhawk Try for free	 Lacework Try for free

Impossible Alone

チームがチャンスをつかむために進化し続ける Atlassian

Jira Product Discovery

アイデアから効果まで、重要なものを創り出す

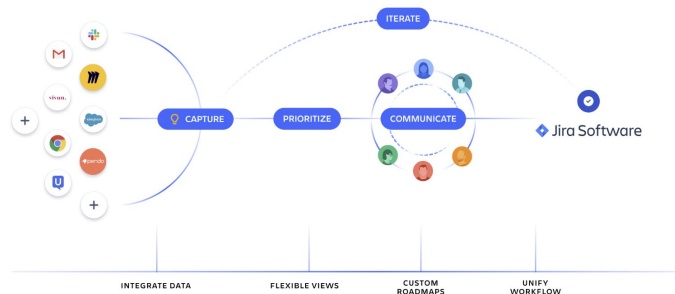
Jira Product Discovery を使用して、製品チームはアイデアを収集して優先順位を付け、製品ロードマップに沿って全員の足並みを揃えることができます。これらはすべて Jira で行えます。

[Jira Product Discovery | 優先順位付けとロードマップのツール | Atlassian](#)

Summary	Goal	Priority score	Strategic value	User impact
Improve discoverability of configuration options	Increase CSAT	100	●●●●●	625
Improve performance of sharing feature	Increase CSAT	78	●●●●●	543
New integration with video resharing platforms	Differentiate	60	●●●●●	501
Dashboards for non-tech users	Increase CSAT	55	●●●●●	287
Improve evaluation and conversions	Conversions	34	●●●●●	434
Video capabilities	Differentiate	27	●●●●●	300
Emojis and reactions	Differentiate	23	●●●●●	100
Enterprise data residency	Conversions	8	●●●●●	243
Grow user base by partnerships	Expand	7	●●●●●	73
Improve performance of the editor	Delight	0	●●●●●	0

Jira でワークフロー全体を一気通貫

Jira では、あらゆるチーム向けの専用のツールにすべてをまとめています。



Impossible Alone

チームがチャンスをつかむために進化し続ける Atlassian

Confluence/Jira のカスタムドメイン化 2024Q2

社内ポータルとしての利便性向上

ConfluenceやJiraがカスタムドメインとして利用できるようになります。
これにより社内のシステムとの SSO等の接続時にシームレスに ConfluenceやJiraを表示することが可能になります。
外部の協力会社との情報共有もドメインがハッキリし視認性が上がります。

xxxxx.atlassian.net



Jira.xxxxx.co.jp
Confluence.xxxxx.co.jp

障害管理

OpsgenieとStatus Page の活用

Opsgenie

インシデント発生時にもコントロールを保てるよう支援

実用的で信頼できるアラート

監視、チケット、チャットの各ツールに密接に統合することで、Opsgenie はアラートを 1 つにまとめ、ノイズを除去し、複数のチャンネルを使ってチームに必要な情報を通知できるため、すばやく問題を解決できます。

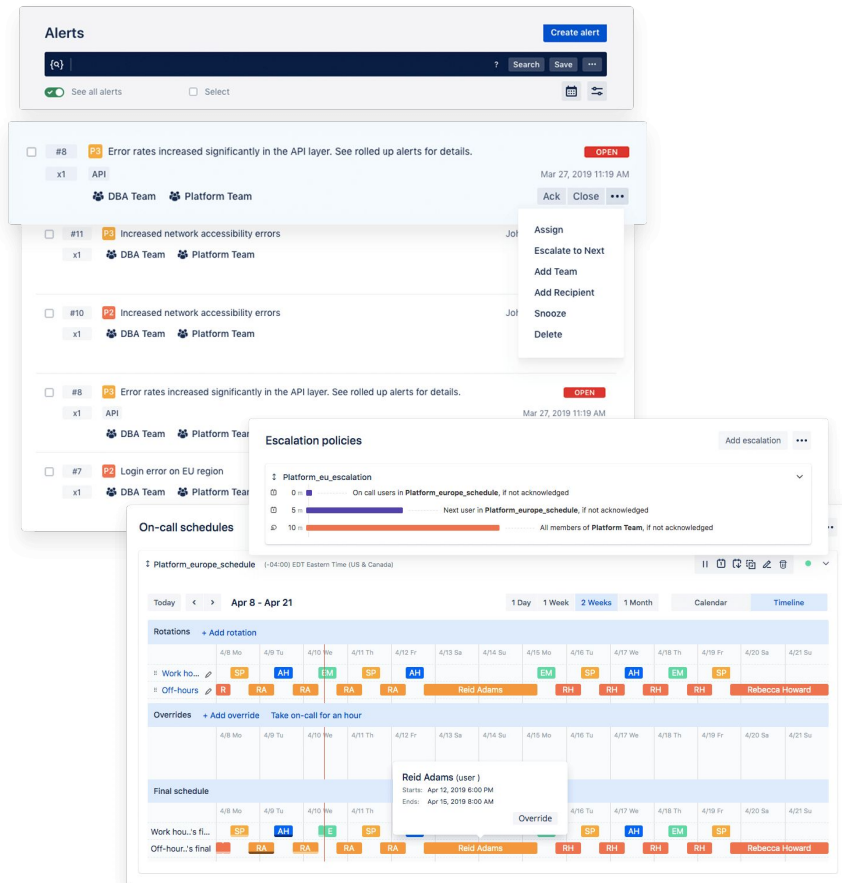
オンコール管理とエスカレーション

スケジュールの作成と変更、エスカレーションルールの定義を 1 つのインターフェースで行えます。チームはインシデント中にオンコール担当者と説明責任者を常に把握し、重要なアラートを見逃さないという自信を持つことができます。

高度なレポートと分析

正常に処理された分野と、改善すべき分野の情報を取得します。Opsgenie はアラートとインシデントに関連するすべてを追跡します。強力なレポートと分析機能を使用して、多くのアラートの原因、承認および解決時のチームのパフォーマンス、オンコール作業負荷の分散方法を明らかにします。

[Opsgenie - 機能 | Atlassian](#)



障害管理

OpsgenieとStatus Page の活用

Status Page

業界No.1の ステータスおよびインシデント コミュニケーションツール

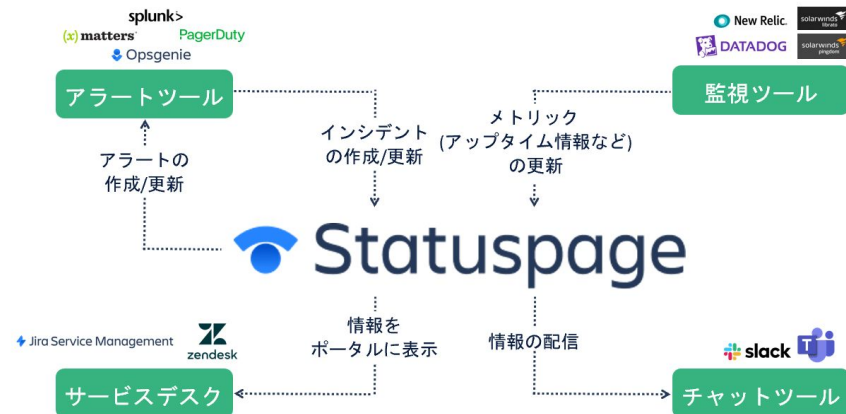
重複するサポートチケットや大量のメールをなくす

積極的な顧客コミュニケーションにより、インシデント発生中に大量のサポートリクエストが送信されるのを阻止します。Statuspage でサブスクライバーを直接管理し、希望のチャンネル（メール、テキストメッセージ、インアプリメッセージなど）を介して一貫性のあるメッセージを送信します。

Statuspageではさまざまな外部ツールと連携することができ、アラートツール、管理ツール、チャットツール、サービスデスク、メール連携や API連携も可能です。発生したインシデントは、SlackやMS Teamsなどのチャットツールに配信できます。また、サービスデスクのポータル上に情報を表示してサポートチケットの起票を回避できます。

[Statuspage | Atlassian](#)

外部連携による自動化



 **ATLASSIAN**

DocuSign®

 **Refined**

 **Tempo**

 **twilio**

 **INTERCOM**

 **VONAGE**

 **Vanta**

 **frontegg**

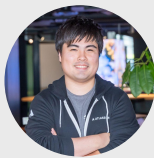
弊社メンバー紹介



高林 喜也

INNOOV株式会社
Enterprise SaaS Architect
(代表取締役社長)

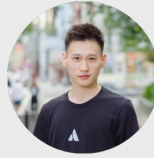
自動車メーカーにて社内改善に10年以上従事。
*IoT製品のプロトタイプをアジャイルにて開発。
アジャイル開発会社にてマネージメントを経験。
現在はメーカーやソフト会社等でのIRAの導入を
通じプロセス改善を行っている。
認定LSPファシリテーター(LEGO®serious
play®)



小西 絃

INNOOV株式会社
Enterprise Team Architect

認定スクラムマスター(CSM®)
Atlassian Certified Expert (ACE)
Certified SAFe® Program Consultant
(SPC5)



塚越 英貴

INNOOV株式会社
Technical verification and sales

認定スクラムマスター(CSM®)
Atlassian Certified Expert (ACE)
SAFe® Agilist (SA)



Jason Jebakumar

INNOOV株式会社
Technical verification

認定スクラムマスター(CSM®)
Atlassian Certified Expert (ACE)
Certified SAFe® Program Consultant
(SPC5)



会社概要



会社名	INNOOV株式会社（イノーブ）
代表者	代表取締役社長 高林 喜也
所在地	〒144-0051 東京都大田区西蒲田/丁目4番4号 小山第二ビル6F
電話番号	03-4291-1997
創立	2017年（平成29年）11月9日

事業内容

経営コンサルティング ※主にソフトウェア会社や企業のIT部門

企業戦略の立案、企業革新、企業情報システムの構築運用

I 社内コミュニケーション改善

II プロセスコンサルティング

III 新規事業及び新製品創出のための支援サービス

企業戦略の立案、企業革新、企業情報システムの構築及びM&Aに関する支援

SaaSパートナービジネス

・Atlassian ソリューションパートナー

・Intercom パートナー

・Vanta パートナー

・Vonage Japan パートナー

・DocuSign リファラルパートナー

・Twilio テクニカルパートナー

・Salesforce ISVパートナー

・Refinedパートナー

・Tempoパートナー

人材育成及び能力育成のための教育事業

AIを活用した自学習学習サポートサービス（コーチング）

主要取引先

・i-PRO株式会社

・ケルヒージャパン株式会社

・京セラコミュニケーションシステム株式会社

・株式会社フィリップス・ジャパン

・Rapidus株式会社

・量子科学技術研究開発機構

・福岡地所株式会社

・日本テトラパック株式会社

・株式会社デンソー（萩原エレクトロニクス株式会社）

・その他ソフト会社/メーカー複数社



Gold
Solution Partner

